

『北斎漫画』

葛飾北斎 作



先日TVで放送されたので、ご覧になった方もいらっしゃると思います。それに有名な作品なので、既にご存知の方も多でしょう。私は、ふと観たTVで初めて知りました。

初編は北斎50才代の作品で、弟子たちに絵の手ほどきをするための教科書「絵手本」として刊行されたものだそうです。『漫画』といってもいわゆる

コミックではなく、北斎言うところの「漫然と描いた画」です。人物から動植物、風俗、人々の暮らしぶり、建築物、名所、自然現象、妖怪等々、本当にいろいろなものが何の脈絡もなく描かれています。

どれもが面白いし、その生き生きとした線にドキドキするのですが、緑地に少々足を踏み入れている者としては、やはり動植物に目がいきます。

ミミズやくモ、テントウムシ、斜め下から見たカエル。ヒツジグサやイタドリ、たんぽぽ、根ごと抜いた黒百合は図鑑のように細かく描かれています。四季折々の樹木、枝の様子、イチヨウなどの落ち葉。魚介類も細かい描写の中にも、どこかユーモラスな表情があり、くじらやサメ、水豹(あざらし)…あざらしは昔から『あざらし』なのかと驚いたり、人魚や河童まで見ることができます。

その他にも、有名な「神奈川冲浪裏」に描かれたダイナミックな波や、「駿州江尻」の風の元になったと思われる自然現象の表現など、自然への畏敬の念と小さなものへの愛情をもって、万物に向き合っている北斎の姿が感じられる本です。

表紙画像は東京美術のものですが、他にもいろいろな出版社のものがあり、ネットでも画像を楽しめます。

(遠藤)